

日本史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学 者 読替先授業科目
日本史概論	日本史概説1	2	堀 裕、柳原 敏昭 籠橋 俊光 安達 宏昭	3	前期火曜日3講時	
日本史概論	日本史概説2	2	堀 裕、柳原 敏昭 籠橋 俊光 安達 宏昭	4	後期木曜日2講時	
日本史基礎講読	古代史料講読	2	堀 裕	4	後期火曜日4講時	
日本史基礎講読	中世史料講読	2	柳原 敏昭	4	後期水曜日4講時	
日本史基礎講読	近現代史料講読	2	安達 宏昭	3	前期金曜日2講時	
古文書学	中世古文書読解入門	2	柳原 敏昭	3	前期水曜日4講時	
古文書学	近世古文書読解	2	籠橋 俊光	4	後期水曜日4講時	
日本史各論	日本古代史の研究と方法(1)	2	堀 裕	5	前期金曜日2講時	
日本史各論	日本中世社会の研究	2	七海 雅人	6	後期金曜日1講時	
日本史各論	近世社会の研究	2	籠橋 俊光	6	後期金曜日2講時	
日本史各論	日本近現代史研究の現状と課題(3)	2	安達 宏昭	6	後期水曜日2講時	
日本史各論	歴史資料保全の実践	2	佐藤 大介	集中(5)	集中講義	
日本史各論	象徴天皇制の研究	2	河西 秀哉	6	後期集中 その他 連講	
日本史演習	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	5	前期火曜日2講時	
日本史演習	古代史料の研究(1)	2	堀 裕	6	後期火曜日2講時	
日本史演習	古代史料研究(1)	2	堀 裕	5	前期金曜日3講時	
日本史演習	古代史料研究(1)	2	堀 裕	6	後期金曜日3講時	
日本史演習	鎌倉時代の法と社会(1)	2	柳原 敏昭	5	前期月曜日3講時	
日本史演習	鎌倉時代の裁判と社会(2)	2	柳原 敏昭	6	後期月曜日3講時	
日本史演習	日本中世史の研究(1)	2	柳原 敏昭	5	前期月曜日4講時	
日本史演習	日本中世史の研究(2)	2	柳原 敏昭	6	後期月曜日4講時	

日本史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本史演習	近世史料研究(1)	2	籠橋 俊光	5	前期火曜日4講時	
日本史演習	近世史料研究(2)	2	籠橋 俊光	6	後期火曜日4講時	
日本史演習	近世史研究法(1)	2	籠橋 俊光	5	前期水曜日5講時	
日本史演習	近世史研究法(2)	2	籠橋 俊光	6	後期水曜日5講時	
日本史演習	近現代政治・社会史の 研究(1)	2	安達 宏昭	5	前期水曜日3講時	
日本史演習	近現代政治・社会史の 研究(2)	2	安達 宏昭	6	後期水曜日3講時	
日本史演習	近現代史研究法(1)	2	安達 宏昭	5	前期火曜日5講時	
日本史演習	近現代史研究法(2)	2	安達 宏昭	6	後期火曜日5講時	
日本史実習	史料整理・保存の理論 と方法	2	籠橋 俊光	5	前期金曜日4講時5講時	
日本史実習	史料整理実習	2	籠橋 俊光	6	後期金曜日4講時5講時	
アーカイブズ学演習	アーカイブズ学研究法	2	加藤 諭	5	前期木曜日2講時	

科目名：日本史概論／ Japanese History (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：堀 裕、柳原 敏昭、籠橋 俊光、安達 宏昭

コード：LB32302, 科目ナンバリング：LHM-HIS201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本史概説 1

2. Course Title (授業題目) : Lecture on Japanese History 1

3. 授業の目的と概要：「モノ」を通して、日本の歴史の概要と特色を学ぶことを目的とする。「モノ」とは、金・銀・銅や、刀、鉄砲といった一般的に人びとが利用した物質的存在や、美術作品など固有の意義を持つ物質的存在などを指す。こうした様々な「モノ」に注目することで、政治史だけでは気づけなかったような日常生活の変化や国際関係の変貌を明らかにすることが期待されるのである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students understand overview and the features of Japanese history.

5. 学修の到達目標：日本の歴史の概要を理解すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students see overview and the features of Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (柳原)
2. 古代 1 (堀)
3. 古代 2 (堀)
4. 古代 3 (堀)
5. 中世 1 (柳原)
6. 中世 2 (柳原)
7. 中世 3 (柳原)
8. 近世 1 (籠橋)
9. 近世 2 (籠橋)
10. 近世 3 (籠橋)
11. 近現代 1 (安達)
12. 近現代 2 (安達)
13. 近現代 3 (安達)
14. 歴史学における「モノ」(安達)
15. まとめと試験 (堀・籠橋)

8. 成績評価方法：

授業に対する意見提出などの授業への参加 (30%)・試験 (70%)

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：配布されたプリントや参考文献を、授業後に復習のために、見直したり、読んだりする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

面談を希望する者は、担当教員まで連絡すること。

科目名：日本史概論／ Japanese History (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：堀 裕・柳原 敏昭・籠橋 俊光・安達 宏昭

コード：LB44201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS201J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本史概説2

2. Course Title (授業題目)：Lecture on Japanese History 2

3. 授業の目的と概要：日本史に関わる「人の移動」を通して、日本の歴史の概要と特色を学ぶことを目的とする。いつの時代においても、日本列島の内外を舞台に、人びとは、移住や交易など、様々な目的で移動を繰り返してきた。その移動によって、人びとの日常生活が支えられていたり、時に政治史に大きな影響を与えるなど、日本の社会構造の特色を考える上で重要な役割を果たしたと考えられる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students understand overview and the features of Japanese history.

5. 学修の到達目標：日本の歴史の概要を理解すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students see overview and the features of Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (安達)
2. 古代1 (堀)
3. 古代2 (堀)
4. 古代3 (堀)
5. 中世1 (柳原)
6. 中世2 (柳原)
7. 中世3 (柳原)
8. 近世1 (籠橋)
9. 近世2 (籠橋)
10. 近世3 (籠橋)
11. 近現代1 (安達)
12. 近現代2 (安達)
13. 近現代3 (安達)
14. 歴史学のいま (柳原)
15. まとめと試験 (堀・籠橋)

8. 成績評価方法：

授業に対する意見提出などの授業への参加 (30%)・試験 (70%)

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：配布されたプリントや参考文献を、授業後に復習のために、見直したり、読んだりする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

面談を希望する者は、担当教員まで連絡すること。

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB42401, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料講読

2. Course Title (授業題目)：Introductory reading of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：日本古代史に関する史料の基礎的な講読を行う。題材は、古代史研究に必要な漢文史料を取り上げる。受講生は史料を読解し、各自報告を行う。これにより、歴史史料読解の能力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn basic historical materials on Japanese ancient history.

5. 学修の到達目標：日本古代の漢文史料の読解力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students learn how to read basic historical materials on Japanese ancient history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 日本古代の文献史料について。史料講読のすすめかた。
2. 日本古代の漢文史料の読み方 (1)
3. 日本古代の漢文史料の読み方 (2)
4. 日本古代の漢文史料の読み方 (3)
5. 日本古代の漢文史料の読み方 (4)
6. 日本古代の漢文史料の読み方 (5)
7. 古代漢文史料を読む (1)
8. 古代漢文史料を読む (2)
9. 古代漢文史料を読む (3)
10. 古代漢文史料を読む (4)
11. 古代漢文史料を読む (5)
12. 古代漢文史料を読む (6)
13. 古代漢文史料を読む (7)
14. 古代漢文史料を読む (8)
15. まとめ と試験

8. 成績評価方法：

筆記試験 (50%)・授業への参加 (50%)

9. 教科書および参考書：

講義中プリントを配付

10. 授業時間外学習：配布された史料を講義の前に読んでおくこと、および復習を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB42202, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世史料講読
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Japanese Medieval historical Materials
3. 授業の目的と概要： 歴史学は実証の上に成り立つ学問であり、それを学ぶ者は歴史資料を的確に読みこなすことができなければならない。本講では、その第一歩として日本中世史に関する代表的な史料を講読し、基礎的な読解力を身につけることを目標とする。また、中世社会の特質についても考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Historiography is a discipline that stands on proofs. Students studying Historiography must be able to read historical materials accurately. As a first step, in this class, students read standard historical materials in the Middle Ages and gain the fundamental skills to read them. Students also consider the characteristics of Japanese medieval society.
5. 学修の到達目標：基本的な中世史料を読解できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop basic reading skills to understanding historical materials of medieval Japan.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) ガイダンス
 - 2) 学生による報告と討論
 - 3) 学生による報告と討論
 - 4) 学生による報告と討論
 - 5) 学生による報告と討論
 - 6) 学生による報告と討論
 - 7) 学生による報告と討論
 - 8) 学生による報告と討論
 - 9) 学生による報告と討論
 - 10) 学生による報告と討論
 - 11) 学生による報告と討論
 - 12) 学生による報告と討論
 - 13) 学生による報告と討論
 - 14) 学生による報告と討論
 - 15) 授業のまとめ
8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、議論への関与度）[40%]
9. 教科書および参考書：

講義時にプリントを配布する。

References are handed out at every class.
10. 授業時間外学習：報告者はおおよそ 2 週間前から準備を始めること。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations 2 weeks in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
古文・漢文の基礎的読解力を要する。
It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chinese.

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB33403, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史料講読

2. Course Title (授業題目) : Reading Japanese Modern Historical Documents

3. 授業の目的と概要：日本の近現代史に関する史料（文書）を、輪読する形式で授業を進めていく。書かれている内容を理解するだけでなく、史料の歴史的意義の分析や、近現代史の基礎的な構造についての理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will train reading historical documents of Japanese modern history. This course will be taught in Japanese.

5. 学修の到達目標：(1) 日本近現代史の史料について、読解し理解できるようになる。

(2) 史料の読解を通して、日本近現代史を理解する上で基礎的な事柄について認識を深めることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students read historical documents of Japanese modern history and better understand the basic structure of the Modern Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・大日本帝国憲法の特徴
2. 大日本帝国憲法体制の展開 (1)
3. 大日本帝国憲法体制の展開 (2)
4. 大日本帝国憲法体制の展開 (3)
5. 大日本帝国憲法体制の展開 (4)
6. 大日本帝国憲法体制の変容 (1)
7. 大日本帝国憲法体制の変容 (2)
8. 大日本帝国憲法体制の変容 (3)
9. 大日本帝国憲法体制の変容 (4)
10. 大日本帝国憲法体制の変容 (5)
11. 日本国憲法体制の形成と展開 (1)
12. 日本国憲法体制の形成と展開 (2)
13. 日本国憲法体制の形成と展開 (3)
14. 日本国憲法体制の形成と展開 (4)
15. 授業のまとめと期末試験

なお、教室の収容人数（おそらく 25 名程度を想定）によって、その収容人数を超える履修者が集まったときは、抽選を行う。その場合、授業設定の趣旨から日本史専修所属の 2 年生の受講・履修を最優先とする。

8. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [60%]・() リポート[]・(○) 出席 [20%]・(○) その他（レスポンスペーパーなど） [20%]

なお、感染状況により筆記試験がリポートに変更になることもあるので注意すること

9. 教科書および参考書：

随時、プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：事前に配布された史料（プリント）を授業までに必ず読んでおく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

履修要件：受講者は「近現代史料講読」の未履修者に限る。

オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50、要予約

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB55201, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本古代史の研究と方法（1）

2. Course Title (授業題目) : Research and method of Japanese ancient history

3. 授業の目的と概要：日本古代史に関する論文をとりあげ、講義を行うとともに、学生による論文講読を行う。講義はおもに東アジアの宗教史や東北古代史をとりあげる。それらをふまえ、受講生は、古代史一般に関する論文を読み、論文の内容、その研究成果と課題、研究の背景について報告を行い、それをもとに参加者が討論を行う。これにより、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、論文から何を読み取り、何を考えるべきかを学ぶこととなる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read reports of ancient Japanese history. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts. References(handouts) are provided.

5. 学修の到達目標：日本古代史に関する講義と論文講読を通して、日本古代史に関する研究成果と研究方法を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To gain the fundamental skills in reading reports of ancient Japanese history. Students can deepen their understanding of the ancient Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1.
ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明

2.
古代史講義 1

3.
論文を読む 1

4.
論文を読む 2

5.
古代史講義 2

6.
古代史講義 3

7.
古代史講義 4

8.
論文を読む 3

9.
古代史講義 5

10.
古代史講義 6

11.
古代史講義 7

12.
論文を読む 4

13.
古代史講義 8

14.

15.

まとめ

8. 成績評価方法：

出席と報告（50%）・レポート（50%）

9. 教科書および参考書：

プリント随時配布

10. 授業時間外学習：配付された論文を読むこと。報告者となっている場合は、レポートの作成をすること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：七海 雅人

コード：LB65101, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本中世社会の研究

2. Course Title (授業題目) : Research on Japanese mediaeval society

3. 授業の目的と概要：日本列島の中世社会（平安時代後半～戦国時代・織豊時代）は、人々の個別的な結びつきのあり様が、社会のいたるところに顔をのぞかせるようになり、様々な局面において、自律的な動向や多様性を確かめることができる魅力的な時代と考える。この授業では、そのような中世の社会に関する基本的な文献や史料を読み込み、中世の社会に関する共通認識・到達点などを学習し、これからの課題や方法を探ってみたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In the medieval society of the Japanese archipelago, people's personal relationships become common in society. In addition, we can see autonomous trends and diversity in various situations. In this class, students read standard book and historical materials in the Middle Ages and learn about the achievements of medieval society, and explore future issues and methods.

5. 学修の到達目標：課題図書を読み、内容を整理し、関連する歴史事項や史料を調べることにより、日本中世史研究の文献・史料の検索と読解に関する基本的な方法・理解を修得することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students can acquire basic methods for reading Japanese medieval history research and historical materials by reading assignment book and examining relevant historical issues and sources.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態

この授業は対面でのみで実施します。

1) 授業のガイダンス

2) 課題図書の講読と史料研究 (1)

3) 課題図書の講読と史料研究 (2)

4) 課題図書の講読と史料研究 (3)

5) 課題図書の講読と史料研究 (4)

6) 課題図書の講読と史料研究 (5)

7) 課題図書の講読と史料研究 (6)

8) 課題図書の講読と史料研究 (7)

9) 課題図書の講読と史料研究 (8)

10) 課題図書の講読と史料研究 (9)

11) 課題図書の講読と史料研究 (10)

12) 課題図書の講読と史料研究 (11)

13) 課題図書の講読と史料研究 (12)

14) 課題図書の講読と史料研究 (13)

15) 課題図書の講読と史料研究 (14)、授業のまとめ

8. 成績評価方法：

報告の内容 (50%)、議論にかかわる発言の内容 (35%)、ミニレポート (15%)。

9. 教科書および参考書：

笠松宏至『徳政令』（講談社学術文庫）

KASAMATSU Hiroshi “Debt Cancellation Order”, Kodansya Academic Library)

10. 授業時間外学習：事前学習：課題図書や関係史料を読み、感想・疑問点などを整理する。報告者は報告資料を作成する。

□事後学習：授業の内容や報告資料などをもとに、課題図書や関係史料の内容について自分の考えを整理する。 Pre-learning: Students read assignment book and related historical materials, and organize their impressions and questions. The reporter prepares report materials. Post-learning: Students organize their thoughts on the contents of assignment book and related historical materials based on the contents of classes and report materials

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワーについては開講時に説明する。 Office hours will be notified at the start of the course.

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB65202, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世社会の研究

2. Course Title (授業題目) : Research in Early Modern Society

3. 授業の目的と概要：日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students can deepen their understanding of early modern Japanese society. Students are required to read the designated essays for each class. Positive participation in classes is expected.

5. 学修の到達目標：(1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。

(2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で開催する予定であるが、感染状況等により変更の可能性はある。

1. ガイダンス

2. 受講者による報告と討論(1)

3. 受講者による報告と討論(2)

4. 受講者による報告と討論(3)

5. 受講者による報告と討論(4)

6. 受講者による報告と討論(5)

7. 受講者による報告と討論(6)

8. 受講者による報告と討論(7)

9. 受講者による報告と討論(8)

10. 受講者による報告と討論(9)

11. 受講者による報告と討論(10)

12. 受講者による報告と討論(11)

13. 受講者による報告と討論(12)

14. 受講者による報告と討論(13)

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

9. 教科書および参考書：

講義中に指示する。

10. 授業時間外学習：予習として、該当する論文を精読し、あわせて関連する論文を収集・読解し、当該論文の持つ研究史的意義について考察を加える。復習として、講義内容を踏まえつつ当該論文を再読し、習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50 （要予約）

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB63202, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近現代史研究の現状と課題 (3)
2. Course Title (授業題目)：Current status and problems about the study of Japanese Modern History (3)
3. 授業の目的と概要：日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、近年に刊行された岩波講座『日本歴史』シリーズ近現代編全 5 巻を読んでいく。今期は、主に大正時代を対象とする第 17 巻（近現代 3）を読む。進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する箇所の要旨や内容の特徴を研究史と照らし合わせて報告し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will read the recently published Iwanami Lecture "Japanese History" series to understand the current state of modern Japanese history research. This term, students read Volume 17 (Modern 3: Taisho era). Participants will become reporters in turn, reporting the gist of the part in charge and the characteristics of the content against research history, and discussing it. This aim is to deepen mutual awareness among students. This course will be taught in Japanese.
5. 学修の到達目標：(1) 日本近現代史に関する最近の講座論文を読解し、内容を理解できるようになる。
(2) 講座論文の内容要旨を発表し、研究史の中に位置づけて、討論することができるようになる。
(3) 最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will be able to read and understand recent lecture papers on Japanese modern history.
(2) Students will be able to present the abstract of the dissertation, position it in the research history, and discuss it.
(3) Through recent research re
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第 1 回：ガイダンスと日本近現代史研究の特徴
第 2 回：日本近現代史研究の方法
第 3 回：第 1 章「韓国併合と植民地官僚制の形成」についての報告と討論
第 4 回：第 2 章「帝国日本の形成と展開」についての報告と討論
第 5 回：第 3 章「都市民衆騒擾と政党政治の発展」についての報告と討論
第 6 回：第 4 章「戦間期の家族と女性」についての報告と討論
第 7 回：第 5 章「政党内閣、宮中とワシントン体制」についての報告と討論
第 8 回：第 6 章「改造」の時代」についての報告と討論
第 9 回：第 7 章「大衆社会の端緒的形成」についての報告と討論
第 10 回：第 8 章「昭和恐慌と日本経済」についての報告と討論
第 11 回：第 9 章「社会問題の「発生」」についての報告と討論
第 12 回：大正期に関する論文 1 についての報告と討論
第 13 回：大正期に関する論文 2 についての報告と討論
第 14 回：大正期に関する論文 3 についての報告と討論
第 15 回：まとめと総合討論
8. 成績評価方法：
() 筆記試験 [%]・(○) レポート [50%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他(報告の内容、討論への取り組みなど) [30%]
9. 教科書および参考書：
(教科書) 岩波講座『日本歴史』第 17 巻(近現代 3)、岩波書店、2014 年。(参考論文) 適宜、配布する。
10. 授業時間外学習：上記の教科書や参考論文の指定された箇所を、事前に読んで、議論できるようにしておく。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50 要予約

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐藤 大介

コード：LB98809, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：歴史資料保全の実践

2. Course Title (授業題目) : Passing on the Historical heritage on Tohoku area

3. 授業の目的と概要：この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践を、座学、議論、および実際の地域での活動を通じて学んでいきます。特に、東日本大震災後の歴史資料レスキュー活動や、目下大きな課題になっている、地域社会に膨大に残されている古文書、民具その他の歴史資料をどのように守っていくのかについて討論や実際の体験を通じて、課題の所在を認識することを目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students will learn about issues to protect and pass on the vast amount of historical materials that still remain in the local community, as well as how to practice them, through lectures, discussions, and actual community activities. In particular, the purpose of this project is to identify the location of issues through discussion and actual experiences on how to protect the huge amount of old documents, tools and other historical materials left in local communities, which are currently a major issue, as well as the activities to rescue historical materials after the Great East Japan Earthquake.

5. 学修の到達目標：・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。

・講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Based on the history surrounding the preservation of historical materials in the past, you will learn about the issues for inheriting the historical materials left in the local community.

・Through lectures, students gain the ability to think for themself

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1日 危機に瀕する地域の史料

1 ガイダンス

2 講義 「歴史資料」とは

3 講義 地域の歴史資料の置かれた現状

第2日 「1.17」の経験、「3.11」を経て一大災害時の史料レスキュー

4 講義 阪神・淡路大震災での歴史資料レスキュー

5 講義 東日本大震災での歴史資料レスキュー

6 質疑応答

第3日 史料を通じた地域交流

7 講義 史料を通じて地域と向き合う①若狭路文化研究会（福井県）

8 講義 史料を通じて地域と向き合う②生野文庫（兵庫県）

9 質疑応答

第4日 福島での史料保全活動

10 講義 福島での歴史資料レスキューと歴史再生

11 講義 富岡町での地域資料の保全

12 質疑応答

第4日 史料保全の可能性—「心理社会的支援」からの再検討

13 講義 災害支援としての「史料レスキュー」

14 講義 臨床心理学から「史料レスキュー」を検証する

15 質疑応答

講義はすべて、オンラインによる同時配信（リアルタイム形式）で実施する。

8. 成績評価方法：

・平常点（出席、討論への参加）（40パーセント）

・レポート（60パーセント） *日本語のみとします。

9. 教科書および参考書：

・奥村弘『大震災と歴史資料保存』（吉川弘文館 2011年）

・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』（東北大学東北アジア研究センター報告 2012年）

・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』（東京大学出版会 2014年）

ほか、講義中指示する。

1 0. 授業時間外学習：・歴史資料の救済・保全活動のボランティアが、現在日本の 31 組織によって実施されている。それらに参加し、交流を深めることが、本講義の内容を、真に体得するために有用である。

・上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、**実務・実践的授業**であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

・講義は日本語で行います。 This lecture will be given in Japanese only.

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：6 単位数：2

担当教員：河西 秀哉

コード：LB98825, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：象徴天皇制の研究
2. Course Title (授業題目)：Research on the Symbolic Emperor System
3. 授業の目的と概要：本講義では、象徴天皇制の歴史について、その基本的な議論を理解することを目的とする。特にこれまでの研究方法や課題を踏まえつつ、昭和天皇の退位問題や象徴天皇制の形成・展開過程に関する特徴・変遷などを、新史料（『昭和天皇拝謁記』）を基に解説したい。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this lecture is to understand the basic arguments about the history of the Symbolic Emperor System. In particular, I would like to explain the characteristics and changes related to the issue of Emperor Showa's abdication and the process of formation and development of the Symbolic Emperor System, based on new historical materials ("Haietsuki"), while taking into account the research methods and issues that have been used so far.
5. 学修の到達目標：(1) 象徴天皇制の形成・展開過程に関する基本的な議論を理解する。
(2) 昭和天皇の退位問題に関する特質を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand the basic arguments regarding the process of formation and development of the Symbolic Emperor System.
(2) To understand the characteristics of the issue of Emperor Showa's abdication.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 象徴天皇制をめぐる現状と研究史の整理
 2. 敗戦と退位問題の誕生
 3. 道徳的責任論とは何か
 4. 東京裁判と天皇退位問題
 5. 天皇のなかでの責任①—『昭和天皇拝謁記』第1巻の検討
 6. 天皇のなかでの責任②『昭和天皇拝謁記』第2巻の検討
 7. 講和条約と退位問題
 8. 「おことば」をめぐる①—『昭和天皇拝謁記』第3巻の検討
 9. 「おことば」をめぐる②—『昭和天皇拝謁記』第3巻の検討
 10. 象徴天皇制をいかに確立するか①—『昭和天皇拝謁記』第4巻の検討
 11. 象徴天皇制をいかに確立するか②—『昭和天皇拝謁記』第5巻の検討
 12. 「余生」としての天皇退位
 13. 昭和天皇の死をめぐる
 14. いわゆる「平成流」のあり方
 15. 全体のまとめと試験
8. 成績評価方法：

筆記試験で評価（80％）。2問出題し、1問は初回の講義時に提示します（30％）。もう一題（50％）は授業の内容を理解しているかどうか。試験の持ち込みは可。リアクションペーパー（20％）。
9. 教科書および参考書：

随時、レジュメを配布します。参考書は講義中に紹介します。『昭和天皇拝謁記』（岩波書店）は第1巻・第2巻が発売中で、第3巻は5月、第4巻は8月、第5巻は11月に発売する予定です。興味がありましたら、ぜひ読んでみてください。
10. 授業時間外学習：象徴天皇制に関する数多くの先行研究、講義中に紹介した参考書を読むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
象徴天皇制については、ニュースなどでもよく取り上げられます。現代的な問題に関心を持ちつつ、講義に臨んでください。また、現代日本学研究室の茂木謙之介先生の講義とも関連する部分が多いと思います。ぜひそちらも履修してください。質問がある場合はメール（kawnaishi.hideya.f8@f.mail.nagoya-u.ac.jp）で。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB52205, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料の研究（2）

2. Course Title (授業題目)：research of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：日本古代史を学ぶための基本史料である『令集解』をとりあげる。九世紀に編纂された養老令の官撰私撰注釈書である。記載された令本文と古代の法律家の注釈を精読するとともに、関連する史料も調査し、読解する。これにより、史料の特質を明らかにし、あわせて日本古代の社会や国家の特色を析出する。なお、授業では各回担当者が報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read the document of ancient Japanese law. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学修の到達目標：日本古代の法典である律令に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To gain the fundamental skills in reading Japanese sources. Students can deepen their understanding of the law and society of ancient Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1.
ガイダンス『令集解』とは何か。講読のすすめかた。

2.
『令集解』を読む（1）

3.
『令集解』を読む（2）

4.
『令集解』を読む（3）

5.
『令集解』を読む（4）

6.
『令集解』を読む（5）

7.
『令集解』を読む（6）

8.
『令集解』を読む（7）

9.
『令集解』を読む（8）

10.
『令集解』を読む（9）

11.
『令集解』を読む（10）

12.
『令集解』を読む（11）

13.
『令集解』を読む（12）

14.

『令集解』を読む(13)

15.

まとめ

8. 成績評価方法:

レポート(50%) 報告および討論などでの授業参加(50%)

9. 教科書および参考書:

テキスト 新訂増補国史大系普及版『令集解』(吉川弘文館)。

10. 授業時間外学習: 史料を事前に読むことおよび復習を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他: なし

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB62207, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料の研究（1）

2. Course Title (授業題目) : research of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：平安時代を学ぶための基本史料である『小右記』をテキストとしてとりあげる。『小右記』は、平安時代中期の男性貴族の日記である。記載された内容を精読するとともに、関連する史料も調査し、読解する。このことにより、史料としての扱い方に習熟し、古記録に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では各回担当者が報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read Heian era's document written by a male nobleman. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学修の到達目標：日本古代の古記録、とくに男性貴族の記した日記に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To gain the fundamental skills in reading Japanese sources. Students can deepen their understanding of the society of Heian era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1.
ガイダンス 『小右記』とは何か。講読のすすめかた。

2.
『小右記』を読む（1）

3.
『小右記』を読む（2）

4.
『小右記』を読む（3）

5.
『小右記』を読む（4）

6.
『小右記』を読む（5）

7.
『小右記』を読む（6）

8.
『小右記』を読む（7）

9.
『小右記』を読む（8）

10.
『小右記』を読む（9）

11.
『小右記』を読む（10）

12.
『小右記』を読む（11）

13.
『小右記』を読む（12）

14.

『小右記』を読む(13)

15.

まとめ

8. 成績評価方法:

レポート(50%)・授業での報告と討論への参加(50%)

9. 教科書および参考書:

テキスト 『大日本古記録 小右記』1~11(岩波書店)。購入の必要はない。

10. 授業時間外学習: 史料を事前に読むこと及び復習を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他: なし

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB55302, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料研究（1）

2. Course Title (授業題目)：research of Japanese ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：8世紀を中心とした歴史書『続日本紀』と、平安時代の法制史料『類聚三代格』の講読を行う。これらをテキストとして古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟し、研究課題を抽出する。授業は毎回担当者が報告を行う。できれば、現地見学会を実施する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read the document of ancient Japanese history. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学修の到達目標：古代史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟。さらには史料から研究課題を抽出する力をみがく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To gain the fundamental skills in reading Japanese sources. Students can deepen their understanding of ancient Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1.
ガイダンス 『続日本紀』・『類聚三代格』とは何か。講読のすすめかた。

2.
史料を読む（1）

3.
史料を読む（2）

4.
史料を読む（3）

5.
史料を読む（4）

6.
史料を読む（5）

7.
史料を読む（6）

8.
史料を読む（7）

9.
史料を読む（8）

10.
史料を読む（9）

11.
史料を読む（10）

12.
史料を読む（11）

13.
史料を読む（12）

14.
史料を読む（13）

15.

まとめ

8. 成績評価方法：

レポート（50%）報告と授業への参加（50%）

9. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編（吉川弘文館）、同『類聚三代格』（同）

10. 授業時間外学習：オフィスアワーは金曜 4 限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

古代史料研究（1）（2）は連続履修すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LB65303, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料研究（1）

2. Course Title (授業題目)：research of Japanese ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：8世紀を中心とした歴史書『続日本紀』と、平安時代の法制史料『類聚三代格』の講読を行う。これらをテキストとして古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟し、研究課題を抽出する。授業は毎回担当者が報告を行う。できれば、現地見学会を実施する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read the document of ancient Japanese history. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学修の到達目標：古代史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟。さらには史料から研究課題を抽出する力をみがく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To gain the fundamental skills in reading Japanese sources. Students can deepen their understanding of ancient Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1.
ガイダンス 『続日本紀』・『類聚三代格』とは何か。講読のすすめかた。

2.
史料を読む（1）

3.
史料を読む（2）

4.
史料を読む（3）

5.
史料を読む（4）

6.
史料を読む（5）

7.
史料を読む（6）

8.
史料を読む（7）

9.
史料を読む（8）

10.
史料を読む（9）

11.
史料を読む（10）

12.
史料を読む（11）

13.
史料を読む（12）

14.
史料を読む（13）

15.

まとめ

8. 成績評価方法：

レポート（50%）報告と授業への参加（50%）

9. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編（吉川弘文館）、同『類聚三代格』（同）

10. 授業時間外学習：オフィスアワーは金曜 4 限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

古代史料研究（1）（2）は連続履修すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB51306, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：鎌倉時代の法と社会(1)

2. Course Title (授業題目) : The Lawls and Society of the Kamakura Period 1

3. 授業の目的と概要： 鎌倉幕府は、基本法典である御成敗式目を編纂し、そのほか多数の法令・行政命令を発した（追加法という）。また、裁判記録も残されている。それらは鎌倉時代の法・社会、政権の性格を解明する上での重要な史料である。この時間は、「裁許状」および関連史料の精密な読解を通じて、鎌倉時代の裁判と社会について探究する。授業は受講生による発表と討論を中心として行なう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) :Kamakura Shogunate compiled the basic regulations, Goseibai-shikimoku (御成敗式目) . And it issued numerous additional laws and administrative orders, we say Tsuika-ho (追加法) .

Records of trials are also kept. These are important historical materials for clarifying the nature of the law, society and regime of the Kamakura period. In this class, we study the law and society of the Kamakura period through precise reading of records of trials and related historical materials. This class is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

5. 学修の到達目標：(1)中世史料の基礎的な読解力を身につける。

(2)報告・討論の方法の基礎を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : (1)To gain the fundamental skills in reading medieval Japanese sources.

(2)It enhances the development of students' skill in making oralpresentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容） [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは開講時に配付する。参考書は瀬野精一郎編『鎌倉幕府裁許状集』上下（吉川弘文館）。

The text will be handed out at the beginning of the course. Reference book is Seno Seiichiro "Kamakura Bakuhu Saikyozyou-syu" .

10. 授業時間外学習：報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講者は日本中世史料に関する基礎知識をもっていることが望ましい。日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。

It is recommended that participating students have basic skills in reading medieval Japanese sources. Students must take "The Lawls and Society of the Kamakura Period" 1 and 2 consecu

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB61303, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：鎌倉時代の裁判と社会(2)

2. Course Title (授業題目) : The Laws and Society of the Kamakura Period 2

3. 授業の目的と概要： 「鎌倉時代の法と社会(1)」の続講。単なる史料の読み方や基本的な知識を学ぶ場ではなく、問題点を発見し議論する場と位置づけているので、発表者には問題提起的な報告をすることが求められる。また、それ以外の受講生も主体的に議論に参加しなければならない。受講者が任意にテーマを選び報告する機会も設けたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This class is the continuation of “The Law and Society of the Kamakura Period 1” in the previous semester. This class aims to find issues and discuss them. Students who are presenting are required to make presentations that pose issues. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

5. 学修の到達目標：(1) 中世史料の読解力を身につける。

(2) 鎌倉時代の法と社会について理解を深める。

(3) 報告・討論の方法の基礎を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : (1) To gain the skills in reading medieval Japanese sources.

(2) Students can deepen their understanding of the law and society of Kamakura era.

(3) It enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) ガイダンス

2) 学生による報告と討論

3) 学生による報告と討論

4) 学生による報告と討論

5) 学生による報告と討論

6) 学生による報告と討論

7) 学生による報告と討論

8) 学生による報告と討論

9) 学生による報告と討論

10) 学生による報告と討論

11) 学生による報告と討論

12) 学生による報告と討論

13) 学生による報告と討論

14) 学生による報告と討論

15) 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他(授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは開講時に配付する。参考書は瀬野精一郎編『鎌倉幕府裁許状集』上下(岩波書店)。

The text will be handed out at the beginning of the course. Reference book is Seno Seiichiro “Kamakura Bakuhu saikyozyou-syu”

10. 授業時間外学習：報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。

Students must take “The Laws and Society of the Kamakura Period” 1 and 2 consecutively.

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB51404, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本中世史の研究（1）

2. Course Title (授業題目)：Study on Japanese Medieval History 1

3. 授業の目的と概要：受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students present research findings on Japanese medieval history and discuss them. Through that, students refine their research methods and master about skills of presentation and discussion. Students will also learn how to write theses.

5. 学修の到達目標：(1)日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。

(2)報告・討論の方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students acquire advanced research skills in medieval Japanese history.

(2)It enhances the development of students' skill in making oralpresentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) ガイダンス

2) 学生による報告と討論

3) 学生による報告と討論

4) 学生による報告と討論

5) 学生による報告と討論

6) 学生による報告と討論

7) 学生による報告と討論

8) 学生による報告と討論

9) 学生による報告と討論

10) 学生による報告と討論

11) 学生による報告と討論

12) 学生による報告と討論

13) 学生による報告と討論

14) 学生による報告と討論

15) 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度）[40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

Nothing.

10. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Reporters should make sufficient preparations in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

日本古代・中世史研究演習「日本中世史の研究」(1)(2)は連続履修すること。

Students must take "Study on Japanese Medieval History" 1 and 2 consecutively.

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB61402, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本中世史の研究 (2)
2. Course Title (授業題目)：Study on Japanese Medieval History 2
3. 授業の目的と概要：受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students present research findings on Japanese medieval history and discuss them. Through that, students refine their research methods and master about skills of presentation and discussion. Students will also learn how to write theses.
5. 学修の到達目標：(1)日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。
(2)報告・討論の方法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students acquire advanced research skills in medieval Japanese history.
(2)It enhances the development of students' skill in making oralpresentation and discussion.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) ガイダンス
 - 2) 学生による報告と討論
 - 3) 学生による報告と討論
 - 4) 学生による報告と討論
 - 5) 学生による報告と討論
 - 6) 学生による報告と討論
 - 7) 学生による報告と討論
 - 8) 学生による報告と討論
 - 9) 学生による報告と討論
 - 10) 学生による報告と討論
 - 11) 学生による報告と討論
 - 12) 学生による報告と討論
 - 13) 学生による報告と討論
 - 14) 学生による報告と討論
 - 15) 授業のまとめ
8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]
9. 教科書および参考書：

特になし。
Nothing.
10. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Reporters should make sufficient preparations in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
日本古代・中世史研究演習「日本中世史の研究」(1)(2)は連続履修すること。
Students must take "Study on Japanese Medieval History " 1 and 2 consecutively.

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB52403, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史料研究（1）

2. Course Title (授業題目)：Early Modern Document Research (1)

3. 授業の目的と概要： 本講義では、近世史料の正確な読解能力を養成する。素材には、伊達騒動に関する記録である「桃遠境論集」を用いる。御家騒動の代表例として名高い伊達騒動に関する史料を読み進めながら、事件そのものはもちろんであるが、近世前期の武家社会、藩主と重臣の関係、藩内政治の実像、武家文書の特徴、仙台藩士の存在形態、村と境界の問題などを考えていく。原文書のコピーを使用するため、相当の古文書読解能力を必要とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read early modern Japanese document. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学修の到達目標：(1)近世史料の基礎的な読解能力を身につける。(2)自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

本講義はオンラインで実施する予定であるが、感染状況等により変更の可能性はある。

1. ガイダンス

2. 伊達騒動について（1）

3. 伊達騒動について(2)

4. 史料読解の報告と討論(1)

5. 史料読解の報告と討論(2)

6. 史料読解の報告と討論(3)

7. 史料読解の報告と討論(4)

8. 史料読解の報告と討論(5)

9. 史料読解の報告と討論(6)

10. 史料読解の報告と討論(7)

11. 史料読解の報告と討論(8)

12. 史料読解の報告と討論(8)

13. 史料読解の報告と討論(10)

14. 史料読解の報告と討論(11)

15. 史料読解の報告と討論(12)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

9. 教科書および参考書：

「桃遠境論集」（コピー配布） 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』（吉川弘文館）、『仙台市史』通史編 4 近世 2（仙台市）、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』（吉川弘文館）。

10. 授業時間外学習：予習として、事前に配布された古文書のコピーについて古文書解読辞典を用いて読解し、文字・言葉の意味を各種辞典を用いて調べ、読み下し、現代語訳を作成する。受講後、講義内容をもとに自らの解釈の問題点を修正し、さらに習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

必ず「近世史料研究（2）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB62403, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史料研究（2）

2. Course Title (授業題目) : Early Modern Document Research (2)

3. 授業の目的と概要： 「近世史料研究(1)」の続講。近世史料の正確な読解や基礎的な知識を身につけ、その上で自ら論点を探り、深めていく。受講者には、講義への主体的な参加を求める。なお、必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read early modern Japanese document. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学修の到達目標：(1)近世史料の基礎的な読解能力を身につける。(2)自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

本講義はオンラインで実施する予定であるが、感染状況等により変更の可能性はある。

1. ガイダンス

2. 史料読解の報告と討論(1)

3. 史料読解の報告と討論(2)

4. 史料読解の報告と討論(3)

5. 史料読解の報告と討論(4)

6. 史料読解の報告と討論(5)

7. 史料読解の報告と討論(6)

8. 史料読解の報告と討論(7)

9. 史料読解の報告と討論(8)

10. 史料読解の報告と討論(9)

11. 史料読解の報告と討論(10)

12. 史料読解の報告と討論(11)

13. 史料読解の報告と討論(12)

14. 史料読解の報告と討論(13)

15. 史料読解の報告と討論(14)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

9. 教科書および参考書：

「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編 4 近世 2 (仙台市)、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)

10. 授業時間外学習：予習として、事前に配布された古文書のコピーについて古文書解読辞典を用いて読解し、文字・言葉の意味を各種辞典を用いて調べ、読み下し、現代語訳を作成する。受講後、講義内容をもとに自らの解釈の問題点を修正し、さらに習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

必ず「近世史料研究（1）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB53501, **科目ナンバリング：**LHM-HIS306J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史研究法 (1)

2. Course Title (授業題目)：Research Methods in Early Modern History (1)

3. 授業の目的と概要： 受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する 3 年生・4 年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法 (1)」と連続で受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire abundant knowledge and identify a research in early modern Japanese history. Positive participation in classes is expected.

5. 学修の到達目標：(1)日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。(2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義はオンライン・対面を併用する予定であるが、感染状況等により変更となる可能性がある。

1. ガイダンス

2. 受講者による報告と討論 (1)

3. 受講者による報告と討論 (2)

4. 受講者による報告と討論 (3)

5. 受講者による報告と討論 (4)

6. 受講者による報告と討論 (5)

7. 受講者による報告と討論 (6)

8. 受講者による報告と討論 (7)

9. 受講者による報告と討論 (8)

10. 受講者による報告と討論 (9)

11. 受講者による報告と討論 (10)

12. 受講者による報告と討論 (11)

13. 受講者による報告と討論 (12)

14. 受講者による報告と討論 (13)

15. 受講者による報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

出席 [20%]・レポート [40%]・その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

必ず「近世史研究法（2）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB63501, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史研究法（2）

2. Course Title (授業題目)：Research Methods in Early Modern History (2)

3. 授業の目的と概要： 「近世史研究法（1）」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire abundant knowledge and identify a research in early modern Japanese history. Positive participation in classes is expected.

5. 学修の到達目標：(1)日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。(2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

本講義はオンライン・対面を併用する予定であるが、感染状況等により変更となる可能性がある。

1. ガイダンス

2. 受講者による報告・討論(1)

3. 受講者による報告・討論(2)

4. 受講者による報告・討論(3)

5. 受講者による報告・討論(4)

6. 受講者による報告・討論(5)

7. 受講者による報告・討論(6)

8. 受講者による報告・討論(7)

9. 受講者による報告・討論(8)

10. 受講者による報告・討論(9)

11. 受講者による報告・討論(10)

12. 受講者による報告・討論(11)

13. 受講者による報告・討論(12)

14. 受講者による報告・討論(13)

15. 受講者による報告・討論(14)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB53307, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代政治・社会史の研究 (1)

2. Course Title (授業題目)：A study of the Modern Japanese Political and Social History (1)

3. 授業の目的と概要：戦時期の陸軍の基礎資料である『機密戦争日誌』（大本営陸軍部戦争指導班の業務日誌）を読解し、関連する史料などと照合して、近現代日本の政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。この学期において『機密戦争日誌』で主に読解する時期は、1944年分を予定している。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will read the Japanese Army's basic document during the war, such as "Kimitsu Senso Niishi"(The Secret War diary), and check related documents, and consider politics and society in modern Japan.

This class is seminar form, and each time, the reporter selected among students will examine a certain range of biographies and presents it. Then students will ask questions and discuss the reporters.

This semester is scheduled to be read mainly in "Kimistu Senso Niishi"(The Secret War Journal) for 1944. This course will be taught in Japanese.

5. 学修の到達目標：(1)史料を幅広い視点から分析できるようになる。

(2)史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。

(3)上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The purpose of this course is to help students will be possible to analyze historical documents from a broad perspective.

(2) Through historical analysis, students will be able to better understand modern characteristics.

(3) Through the above two t

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・『機密戦争日誌』の概要

2. 1940年ごろの陸軍に関する研究の把握

3. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (1)

4. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (2)

5. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (3)

6. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (4)

7. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (5)

8. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (6)

9. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (7)

10. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (8)

11. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (9)

12. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (10)

13. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (11)

14. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (12)

15. これまでの報告と討論のまとめ

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) レポート [40%]・(○) 出席 [20%]

(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

9. 教科書および参考書：

参考書：『大本営陸軍部戦争指導班 機密戦争日誌 全二巻』（錦正社、1998年）

10. 授業時間外学習：『機密戦争日誌』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代政治・社会史の研究 (1) (2)」(安達担当)は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB63308, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代政治・社会史の研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：A study of the Modern Japanese Political and Social History (2)

3. 授業の目的と概要：前期の「近現代政治・社会史の研究」の続講。前期に使用した『機密戦争日誌』を継続して、演習形式で読解を行う。報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。この学期において、『機密戦争日誌』で主に読解する時期は、1945 年度分を予定している。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will read "Kimistu Senso Niishi" (The Secret War Diary), and check related documents, and consider politics and society in modern Japan. This class is seminar form, and each time, the reporter selected among students will examine a certain range of biographies and presents it. Then students will ask questions and discuss the reporters. Reading the Diary at this semester is mainly 1945. This course will be taught in Japanese.

5. 学修の到達目標：(1) 史料を幅広い視点から分析できるようになる。

(2) 史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。

(3) 上記 2 つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The purpose of this course is to help students will be possible to analyze historical documents from a broad perspective.

(2) Through historical analysis, students will be able to better understand modern characteristics.

(3) Through the above two t

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・『機密戦争日誌』の概要

2. 戦前期日本陸軍の先行研究の把握・検討

3. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (1)

4. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (2)

5. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (3)

6. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (4)

7. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (5)

8. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (6)

9. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (7)

10. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (8)

11. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (9)

12. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (10)

13. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (11)

14. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (12)

15. これまでの報告と討論のまとめ

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]

(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

9. 教科書および参考書：

参考書：『大本営陸軍部戦争指導班 機密戦争日誌 全二巻』(錦正社、1998 年)

10. 授業時間外学習：『機密戦争日誌』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB52503, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史研究法 (1)
2. Course Title (授業題目)：Method of Studies on Japanese Modern History (1)
3. 授業の目的と概要：近現代史における基礎的な研究内容について学び、受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。そして、それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。近現代史で卒業論文を書くことを考えている者は必ず履修すること (3 年生も)
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this class, students will study basic research contents in modern history, set their own research themes, and present their interests, viewing angles, and empirical analysis. Then, through discussions, clarify issues regarding the presenter's research methods. This course will be taught in Japanese.
5. 学修の到達目標：(1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。
(2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。
(3) 上記の 2 つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Students will be able to analyze and criticize previous research and select their own research issues.
(2) Students will be able to collect and analyze historical documents according to their own research issues.
(3) Based on the above two points, s
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義
 2. 受講者の研究報告と討論 (1)
 3. 受講者の研究報告と討論 (2)
 4. 受講者の研究報告と討論 (3)
 5. 受講者の研究報告と討論 (4)
 6. 受講者の研究報告と討論 (5)
 7. 受講者の研究報告と討論 (6)
 8. 受講者の研究報告と討論 (7)
 9. 受講者の研究報告と討論 (8)
 10. 受講者の研究報告と討論 (9)
 11. 受講者の研究報告と討論 (10)
 12. 受講者の研究報告と討論 (11)
 13. 受講者の研究報告と討論 (12)
 14. 受講者の研究報告と討論 (13)
 15. 受講者の研究報告と討論 (14)
8. 成績評価方法：
() 筆記試験 [%]・(○) レポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]
9. 教科書および参考書：
特になし。
10. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約
履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LB62502, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史研究法 (2)

2. Course Title (授業題目)：Method of Studies on Japanese Modern History (2)

3. 授業の目的と概要：日本近世・近代史研究演習Ⅲの研究発表をふまえて、さらに研究を進めて、その成果を報告する。そして、討論を通して課題を絞り、論文などにまとめていく。このことを通して、受講者が、日本近現代史における現在の研究内容について学び、新しい歴史研究の構築とその内容の理解について認識を深める。近現代史で卒業論文を書くことを考えている者は必ず履修すること (3 年生も)

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Based on the research presentation of the Advanced Seminar on Early Modern and Modern History in JapanⅢ (Method of Studies on Japanese Modern History (1)), students will further research and report the results.

Then, through discussions, students narrow down the issues and summarize them into papers.

Through this, participants deepen their understanding of the contents of Japanese modern historical studies. This course will be taught in Japanese.

5. 学修の到達目標：(1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。

(2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。

(3) 上記の 2 つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will be able to analyze and criticize previous research and select their own research issues.

(2) Students will be able to collect and analyze historical documents according to their own research issues.

(3) Based on the above two points, s

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義

2. 受講者の研究報告と討論 (1)

3. 受講者の研究報告と討論 (2)

4. 受講者の研究報告と討論 (3)

5. 受講者の研究報告と討論 (4)

6. 受講者の研究報告と討論 (5)

7. 受講者の研究報告と討論 (6)

8. 受講者の研究報告と討論 (7)

9. 受講者の研究報告と討論 (8)

10. 受講者の研究報告と討論 (9)

11. 受講者の研究報告と討論 (10)

12. 受講者の研究報告と討論 (11)

13. 受講者の研究報告と討論 (12)

14. 受講者の研究報告と討論 (13)

15. 受講者の研究報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること

科目名：日本史実習／ Japanese History (Field Work)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時. 前期 金曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB55404, 科目ナンバリング：LHM-HIS307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：史料整理・保存の理論と方法

2. Course Title (授業題目) : Document Organization and Preservation: Purpose and Methods

3. 授業の目的と概要： 歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などの機能の相違や、実物史料の取り

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.

5. 学修の到達目標：史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will develop skills needed to handle real Japanese document.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面での実施を予定しているが、感染状況等により変更となる可能性がある。

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論(1)
5. アーカイブズの理論(2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. フィールド実習
13. 史料整理の基礎 (1)
14. 史料整理の基礎 (2)
15. 史料整理の基礎 (3)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、必ず日本史実習「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講

すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業／Practical business

科目名：日本史実習／ Japanese History (Field Work)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時, 後期 金曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB65403, 科目ナンバリング：LHM-HIS307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：史料整理実習

2. Course Title (授業題目) : Practicum in Document Organization

3. 授業の目的と概要： 実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.

5. 学修の到達目標：実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will develop skills needed to handle real Japanese document.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面での実施を予定しているが、感染状況等により変更となる可能性がある。

1. ガイダンス

2. 史料整理実習 (1)

3. 史料整理実習 (2)

4. 史料整理実習 (3)

5. 史料整理実習 (4)

6. 史料整理実習 (5)

7. 史料整理実習 (6)

8. 史料整理実習 (7)

9. 史料整理実習 (8)

10. 史料整理実習 (9)

11. 史料整理実習 (10)

12. 史料整理実習 (11)

13. 史料整理実習 (12)

14. 史料整理実習 (13)

15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告

8. 成績評価方法：

出席[30%]・受講態度[70%]

9. 教科書および参考書：

各自古文書読解用辞典類を持参すること。

10. 授業時間外学習：前期内容を十分に復習し、あわせて古文書読解の練習に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

必ず日本史実習「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：アーカイブズ学演習／

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：加藤 諭

コード：LB54212, 科目ナンバリング：LHM-HIS308J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アーカイブズ学研究法

2. Course Title (授業題目)：Research Methods in Archival Science

3. 授業の目的と概要：本講義は、実際にアーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの業務について、ディスカッションや実践を通じて体得する授業である。アーカイブズ機関の現場で求められるアーキビストの使命・倫理、資料保存に関する技術、公文書の保存・修復・利用に関する知識、専門的な知識やマネジメント、職務上必要なスキルやマネジメント能力について、理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture is a class in which students learn about the work of archivists actually required in archives through discussion and practice. Students will deepen their understanding of the mission and ethics of archivists required in the field of archives, techniques related to document preservation, knowledge of preservation, restoration, and utilization of official documents, expertise and management, and skills and management abilities necessary for their work.

5. 学修の到達目標：本講義は、現場のアーキビストとのディスカッションや、マネジメントに関する演習等をおこない、アーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの知識・技能を体得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In this lecture, students will have discussions with archivists in the field and practice management to acquire the knowledge and skills required of archivists in archival institutions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. アーキビストの使命と役割
3. 国立大学法人における文書管理と連携
4. 大学アーカイブズにおける保存・修復・利用
5. 大学アーカイブズにおける MLA 連携とアウトリーチ活動
6. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践①
7. 自治体アーカイブズにおける業務と実践①
8. 自治体アーカイブズにおける業務と実践②
9. 民間アーカイブズにおける業務と実践
10. 自治体アーカイブズにおける業務と実践③
11. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践②
12. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践③
13. 東北大学史料館における記録資料の整理公開①
14. 東北大学史料館における記録資料の整理公開②
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

エリザベス・シェパード、ジェフリー・ヨー（共著）、森本祥子、平野泉、松崎裕子（編・訳）『レコード・マネジメント・ハンドブック：記録管理・アーカイブズ管理のための』日外アソシエーツ、2016年、スー・マケミッシュ、マイケル・ピゴット、バーバラ・リード、フランク・アップウオード（共編）、安藤正人、石原一則、坂口貴弘、塚田治郎、保坂裕興（訳）『アーカイブズ論：記録のちからと現代社会』明石書店、2019年

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし